

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【応用基礎レベル】

令和7年度生物資源学部数理・データサイエンス・AI学修プログラム自己点検・評価について

自己点検・評価の視点	評価総括	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況	初年度としては良好	プログラム開始初年度である令和7年度は、生物資源学部の収容定員1060名（入学定員260名）に対して268名が本プログラムを履修した。収容定員に対する履修率は約25%であるが、対象学生が1年生のみであり、入学定員に対する履修率は100%を超えていることから、初年度としては良好と判断した。これは、本プログラムの1年生対象科目がいずれも必修科目（共通教育の大学基礎科目および専攻基礎科目）で構成されているためである。今後、選択必修科目や選択科目が含まれる2年次以降の履修率の推移をふまえて評価する必要がある。
学修成果	概ね良好	令和7年度に実施したプログラム科目は数学基礎およびデータサイエンスIIであるが、シラバスを確認するとともに授業担当教員への聞き取りを行ったところ、この2科目で、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）の必要要件である3つの基本的要素を含むとともに、モデルカリキュラムの14の対応箇所のうち11箇所を含むことを確認した。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	概ね良好	本学では、全学的に全科目に対して「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」を実施している。このアンケートにおける、令和7年度の本プログラム科目の集計結果を確認した。学生の授業の理解度についての回答は、5点満点中3.5～4.3点（平均3.97点）であり、概ね良好と判断した。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	概ね良好	本学では、全学的に全科目に対して「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」を実施している。このアンケートにおける、令和7年度の本プログラム科目の集計結果を確認した。学生の授業の関心の高まりおよび満足度についての回答は、前者で5点満点中3.5～4.2点（平均3.92点）、後者で3.6～4.4点（平均4.17点）であり、概ね良好と判断した。なお、自由記述欄等を含めても後輩や他の学生へ受講を推奨するような意見は無かったが、これは、令和7年度時点では、本プログラムの開講科目の全科目が必修科目であるためであろう。
全学的な履修者数、履修率向上に 向けた計画の達成・進捗状況	評価対象外	プログラム開始初年度で、開講科目のすべてが必修科目であることから、履修者数や履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を評価することはできない。生物資源学部の就学支援制度である就学カウンセラー教員による半期ごとの就学指導時に、本プログラムの周知を行うことで、今後の履修率の維持に向けて取り組む予定である。

自己点検・評価の視点	評価総括	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>今後実施予定</p>	<p>令和7年度に開設したプログラムで、修了要件に3年次の専門科目が含まれているため修了者がまだ出ていないが、本プログラム修了者に対して、卒業時アンケート等で、履修した内容が進路に役に立ったか等を調査し、分析することで、次年度の授業改善に活用する。</p> <p>また、プログラム修了者の進路についてとりまとめるとともに、進路先にアンケートを行い、活躍状況や企業等による評価を解析する予定である。本学では定期的に「卒業生・修了生・事業所へのアンケート調査」を実施しており、プログラム修了者を含む全卒業・修了生への評価と、上記のプログラム修了者に対するアンケートを比較することで、本プログラムの効果を検証可能と考えている。</p> <p>全学的には、実践データサイエンティスト育成プログラム（三重大学と地元企業EBILABとで担当）を実施しており、三重大学側の総括は生物資源学部教員で情報部門長が務めている。DXを推進している地元企業の方々との意見交換および評価を通じた教育プログラムの改善を行う。</p> <p>加えて、上記の進路先へのアンケートへの回答や意見を元に改善を行う予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>		<p>プログラムを構成する科目のうち最初に受講する「数学基礎」においては、データサイエンスとデータエンジニアリングの基礎を学び、「データサイエンスII」では、社会情勢とテクノロジーの進化、データ活用の可能性など、当該学問分野が期待される背景を解説するとともに、実際の応用例や研究成果を紹介し、学習の動機づけを行っている。データサイエンスIIは、本学全体で認定を受けているリテラシーレベル（令和4年度～8年度）の主要科目ではあるが、リテラシーレベル再認定（令和9～11年度）に向けて応用基礎レベルとのつながりを意識した改訂を令和7～8年度にかけて行い、応用基礎レベルにおいても数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させる工夫を行っている。また、学年進行中でまだ履修者はいないが、3年後期（卒業研究に入る前）に設定した「各種演習科目（選択必須科目群Bとして1科目を必ず選択）」において、データサイエンスIIで行った動機づけを再度行うことで、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を再認識させる計画となっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>		<p>自己点検・評価として、授業科目ごとに「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」を行い、生物資源学部FD委員会がアンケートの精査を行い、高評価の授業に対して表彰を行うとともに授業参観を実施することで、より分かりやすい授業となるよう取り組んでいる。</p> <p>また、教育推進・学生支援機構情報部門においても情報共有し、文部科学省の公表する数理・データサイエンス・AI教育の動向についても常時共有した上で、社会状況に合った授業内容について協議・連携してシラバス内容へ反映、更新することで、よりわかりやすい授業となるよう改善を継続する。</p>